



漢字検定2級合格  
美原中3年増山沙弓さん



漢字検定準2級合格  
鳥取西中2年河村萌華さん



漢字検定3級合格  
富原中1年遠藤柚月さん



2011年「今年の漢字」的中！  
富原中2年栗山留佳さん（左）と景雲中3年木村侑里さん



清水寺の「今年の漢字」。塾でも皆に今年の漢字一字を書いて投票してもらいました。その結果、「絆」と書いたのは塾長と栗山さんと木村さんの3名でした。とにかく大変な年で、大事なものが何か分かった年です。二人には図書カードが贈られました。



1年生から3年生まで全員参加の計算特講12/17 1日9時間がんばる3年生 高専4年の富樫君が丸付け

## 『新指導要領スタートの年です!』

2012年が始まりました。高校受験の皆さんは入試まで60日あまりとなりました。冬期講座も後半に入りました。インフルエンザの流行もこれからです。寒さと部屋の乾燥には十分に注意し、家庭でも塾でも風邪対策のうがいと手洗いを励行しましょう。

冬期講座、中三生は復習と受験対策の学習です。残り60日、30点アップを目標に頑張りましょう。最終的に志望校を決めるのは2月です。M中のあるクラスでは三十数名中二十名程が推薦ということだそうです。しかも推薦の話は三者面談の後、何のための三者面談なのでしょう。

人生の中で最も大事だとされる時に楽な方を選択することは、将来の自分にとってプラスにはなりません。推薦は合格が確定するわけではありません。

せん。最後まで気を抜かないことです。結果ではなく「本当に一生懸命やった」という達成感を持つて十五の春を終わることです。一、二年生は徹底した復習と定着です。普段の授業よりも長時間を使う冬期講座では、もうすぐ来る次の学年への準備として内容的にも気持ち的にも積極的な姿勢で取り組むことが大切です。

24年度から教科書の内容が大幅に増え難しくなります。いつも言っているように試験で頑張ることとは出来ません。普段の学習の結果が試験にでるのです。ひとつひとつの学習をより丁寧にやってみて確実に覚えることです。そのためには多くの問題を解くことです。教科書の内容が増えるわけですから今までの学習量では足りなくなりますが、部活との両立は更に大変になると思います。あくまでも部活は教育の一環で行うものですが、中には「勉強のことはどうでもいい」と思っているのではな

いかという部活の先生もいます。中学生にとって、将来の自分にとって一番大事なのは何かを考えて下さい。基礎学力をつけ、応用力をつけるための努力そのものが社会で通用するために必要なことなのです。「生きる力」は学力なしに、考える力なしに、そして努力なしにはできません。

12月29日に卒業生（遠矢中―高専電子工学）でEPSONに就職した榎並君が二年振りに帰ってきて塾に来てくれ近況を話してくれました。

彼は研究・開発の仕事をしていて今は3Dのプロジェクトの開発をしていて、それが3月に発売されるそうですが、多分売れないでしょう。では、なぜ作るのかと聞いたら会社のステータス（威信）だと言っていました。

彼の部署で高専卒は自分だけで周りは東大をはじめとする国立大工学部卒のすごい人ばかりだそうです。EPSONでは社員に等級があって、今年BランクからCランク（大学院卒は初めからCランク）に上がるために論文を書かなければならないそうです。そしてCランクに昇格すると、ここからは本当の実力主義になるそうです。

今回彼の年末・年始の休暇は18日間で会社の福利厚生はとても充実していて、サービス残業のようなどは全くなく、とても楽しく仕事をしていると言っていました。

その彼が、自分のことを考えても、とにかく大事な今は今ですよ。あの時がなければ今はなかったと、勉強している中学生のことを言っていました。充実した将来・未来は今頑張らなければありえないと。

榎並君を見てみると皆さんにもそうなってほしいといつくづく思います。卒業生の先輩に負けられないように今年も頑張りましょう。

## ★漢字検定・数学検定の結果★

昨年11月に行われた漢字検定の結果は過去最低の合格率でした。その理由は受験者43名中22名が三級以上で二級が4名、準二級9名、三級が9名と漢検受験始めて以来過去にない高い級の受験が多かったことにあります。しかし今回は、今までなかった、三年生で増山さんが2級、二年生で河村さんが準2級、一年生で遠藤さんが3級に初

めて合格しました。増山さんには2級の受験料、河村さんと遠藤さんには図書カードが贈られました。

漢字は社会に出てから必要などでも大事なものです。今回の漢検も頑張ってください。

一方、数学検定では三級に小原史也君・柏原紳吾君・川口智之君・中村祐輔君（美原中3年）、四級に工藤史歩さん（美原中3年）、六級に須貝くるみさん（附属小6年）、九級に須貝光君（附属小3年）に合格しました。おめでとうございます。

理系・工学系の時代になっていますが、数学、理科の重要性は言うまでもありませんが、社会的な知識や語学力、読解力を身につけなければなりません。各検定は勉強をする上で、一つの目標となり励みになります。積極的に取り組んでいきましょう。

## 「1月の予定」

|    |    |    |    |                    |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |          |    |             |             |    |      |               |                     |   |   |   |   |      |   |   |        |   |
|----|----|----|----|--------------------|--------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----------|----|-------------|-------------|----|------|---------------|---------------------|---|---|---|---|------|---|---|--------|---|
| 31 | 30 | 29 | 28 | 27                 | 26                 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17       | 16 | 15          | 14          | 13 | 12   | 11            | 10                  | 9 | 8 | 7 | 6 | 5    | 4 | 3 | 2      | 1 |
| 火  | 月  | 日  | 土  | 金                  | 木                  | 水  | 火  | 月  | 日  | 土  | 金  | 木  | 水  | 火        | 月  | 日           | 土           | 金  | 木    | 水             | 火                   | 月 | 日 | 土 | 金 | 木    | 水 | 火 | 月      | 日 |
|    |    |    |    | ★語彙力・計算力テスト（一、二年生） | ★語彙力・計算力テスト（一、二年生） |    |    |    |    |    |    |    |    | 通常授業スタート | 休塾 | ◎中三定期テスト対策② | ◎中三定期テスト対策① |    | 冬期講座 | ★一、二年生学力コンクール | ★三年生学力コンクール（コアかがやき） |   |   |   |   | 冬期講座 |   |   | 年末年始休み |   |

携帯電話の教習持込禁止  
携帯電話の塾内持込は一切禁止です。連絡は塾の電話を使用して下さい。

## 高校生就職内定 10月末現在58・6%厳しい状況続く

\*\*\*\*\*

来春卒業を予定する高校生の10月末現在の就職内定率は、前年同期を1・5ポイント上回る58・6%だったことが16日、文部科学省の調査で分かった。就職内定率は2年連続で上昇したが、過去最大の下落幅(11・6ポイント)を記録し55・2%となった09年同期からは大幅に改善しておらず、文科省の担当者は「学校やハローワークの連携、企業の求人努力が功を奏しているがまだ厳しい状況だ」と話している。

来春は106万1364人が卒業を予定し、このうち18万7539人が就職を希望している。内定を得たのが10万9990人で、内定を得られていないのは7万7549人。男女別の未内定者は、男子が4万1345人、女子が3万6204人。就職内定率は、男子が前年同期比1・1ポイント増の62・6%、女子が同2・1ポイント増の52・9%となっている。

地域別では、東日本大震災で被害の大きかった岩手(前年同期比4・6ポイント増の66・2%)▽宮城(同7・6ポイント増の47・4%)▽福島(同3・9ポイント増の56%)の3県はいずれも上昇。宮城県の伸び幅は全国最高だった。被災3県の内定率が上昇したことについて、文科省は「企業が被災者向けの求人を積極的に出したことが要因ではないか」とみている。

就職内定率が高かったのは富山県(77・1%)▽福井県(76・8%)▽岐阜県(75・6%)。低かったのは沖縄県(24・6%)▽**北海道(34・3%)**▽青森県(46・5%)の順だった。

毎日 j p 12・17

\*\*\*\*\*

## 戦場カメラマンの渡部陽一さん 好奇心が自身を導く

ゆっくりとした語り口に、誰とでも仲良くなれそうな穏やかな人柄。戦場カメラマンの渡部陽一さん(38)は、その独特のキャラクターで人気を集めています。テレビのバラエティー番組出演で、お茶の間にもおなじみの顔ですが、世界の数々の紛争地域で取材を続けています。学生時代に訪れたアフリカでの壮絶な体験が、報道の世界を志すきっかけとなりました。(草下健夫)

### 法学部に入ったが

「弁護士や検察官など困っている人を助ける仕事に就きたい」。これが大学の法学部に入った動機だった。ところが、一般教養課程の生物学の授業に出たことで、その夢は大きく変わってしまう。

「先生がアフリカの(狩猟民の)ピグミーの話をしてくれた。弓やりでの生活なんて信じられなかった。会いたくなった」。気楽な旅行者気分で、ピグミーが暮らすザイール(現・コンゴ民主共和国)へ。ある日、行商人のトラックに乗せてもらいジャングルを進むと、不意に20人ほどの子供の一群が姿を見せた。

「弁護士や検察官など困っている人を助ける仕事に就きたい」。これが大学の法学部に入った動機だった。ところが、一般教養課程の生物学の授業に出たことで、その夢は大きく変わってしまう。

「先生がアフリカの(狩猟民の)ピグミーの話をしてくれた。弓やりでの生活なんて信じられなかった。会いたくなった」。気楽な旅行者気分で、ピグミーが暮らすザイール(現・コンゴ民主共和国)へ。ある日、行商人のトラックに乗せてもらいジャングルを進むと、不意に20人ほどの子供の一群が姿を見せた。

子供たちは銃を乱射し、近づいてきた。ゲリラの少年兵だったのだ。所持金やカメラなど一切切を差し出す。撃たれなかったのが不幸中の幸いだった。

周辺集落も被害に遭い、女性や子供たちが少年兵に連れ去られていた。「残った村の子供たちは泣き叫んで、『助けて』と僕の服を引っ張る。でも何もできませんでした」

帰国し、大学で友人に体験談を話しても信じてもらえない。「戦ったり、拉致されたりしている子供たちのSOSを世の中に知らせる方法は」。もどかしさが募る中、気付いたのが大好きなカメラのこと。「写真なら子供たちの叫びが伝わるのでは。戦場を撮るカメラマンになろう」

### 悩んだテレビ出演

大学在学中からフリーのカメラマンとして活動。2003(平成15)年に勃発したイラク戦争では、初めてビデオカメラを使ってテレビの仕事をした。フリーアナウンサーの大村正樹さん(44)とバグダッドで知り合い、帰国後も交流を深めてテレビに出演するきっかけをくれたという。

テレビとの接点が深まると、平成21年の年末にはバラエティー番組で、戦場カメラマンの仕事について、インタビューを受けた。ゆっくりと語りかけるような独特な語り口。そのキャラクターが注目され、年が明けるとさまざまな番組に出演を重ねるようになった。「お呼びがかかることが、何とも不思議であり、ありがたいことでもあります」

しかし、テレビ出演には葛藤もあったという。「あくまで戦場の真実を伝えるのが僕の仕事。バラエティー番組はいかがなものか」

悩み続けた末、指導を受けていた報道写真家の山本皓一(こういち)さん(68)に相談した。山本さんのアドバイスは「やってみたらいい。ただ条件として、どの番組でも少しでも撮影した写真を使っただき、自分で何が起きているかを伝えること。これさえ守れば、何を言われても静かにしていなさい」。この言葉が、背中を押してくれた。

バラエティー番組に出たことは、今では良かったと思っている。「子供から年配の方にまで、イラク、アフガニスタン、レバノン、パレスチナ、スーダンといった世界のことを伝えられ、少しでも『アフガニスタンってどんな国なの』と思ってもらえるようになるのが、一番うれしい」。学生時代に訪れたザイールの「助けて」と服を引っ張ってきた子供たちの声が、日本の子供たちの耳に伝わる機会が増えることにつながるからだ。

### 原点は剣士の心

「真実を伝えたい」という思いから、カメラのファインダーを通じて世界を見続けている。その原点は少年時代にまでさかのぼる。

剣豪小説が好きな父親の影響で小中学時代の9年間、剣道に明け暮れた。「礼節を保って自分を律し、目上の人を敬うことをたたき込まれました。今でも僕のカメラマンの仕事には、少年剣道時代がルーツにあると思う」。戦う相手にも敬意を払う剣道で培った心は、時に「サムライジャーナリスト」を名乗る精神にもつながる。どんなことも新鮮な感動として受け止めるおおらかな態度、そして好奇心が自身を導いてきた。

「将来、何十年先かもしれないが、世界から戦争がなくなり、戦場カメラマンの仕事がなくなって、学校カメラマンになること。世界中の学校を撮影し、写真集やドキュメンタリー番組などで、伝えていきたい」

世界を見つめてきた真摯(しんし)なまなざしが、そのまま未来にも向けられている。

### 戦場写真の心がけは

「駆け出しのころ、ほかの戦場カメラマンから『1枚で戦争を仕掛ける側と、やられている側、それぞれの思いが伝わるように』『報道機関向けに配信するときは、どこの国の新聞に載っても分かりやすいものを』とアドバイスをいただき、生かしています」

### 戦場は怖くありませんか

「危機管理をしっかりすることで、恐怖は和らぎます。その絶対条件はガイドさん選び。現地で生まれて人脈を持ち、危険が分かるガイドさんの言うことに必ず従います。生きて帰ることが絶対条件です」

### どうしてそんな話し方を?

「小さいころから友人に『渡部は話し方が変だ』と言われました。外国に行くようになり、言葉が通じない国で単語を正確にゆっくり伝えようと、理解してもらえます。そんな生活を続けて、もともとの話し方に拍車がかかったと思います」

〈わたなべ・よういち〉昭和47年、静岡県生まれ。明治学院大学法学部卒業。紛争地域を中心に、130カ国以上で取材。イラク戦争では米軍従軍(EMBED)取材を経験した。著書に「世界は危険で面白い」(産経新聞出版)、共著に「報道されなかったイラクと人びと」(新風舎)。昨年12月、写真集「MOTHER TOUCH」(辰巳出版)が発売された。MSN産経ニュース

\*\*\*\*\*

11月4日の日経新聞に、「未熟補う就職授業」と題した記事が載っていました。受験の『勝ち組』でない学生たち(中堅大学以下の大学の学生)に対する「就職のための授業」を取り上げたものです。その中に、表題の「発表する人の顔を見よう」という文がありました。要するに、人の話しをきちんと聞くことが出来ない生徒が多いということです。先生の話はきちんとした態度で聞くということです。女子によく見られますが、髪の毛をいじりながら聞いたり、斜に構えていたりする生徒が多いのです。

また、職場訪問(インターンシップ)では、「学生が寝坊して遅刻ばかりで困る」という苦情が、会社側から大学に寄せられるそうです。「人の話をきちんと聞かない」にせよ「寝坊」にせよ、大学生になってから急にそうなるのではなく、子どもの頃からそうなのです。いつの間にか、日本人から基本的な生活習慣・生活態度がかなり抜け落ちてしまいました。そして、こういうことは学力の高さとは無関係になりつつあるように思われます。昔は、学力の高い生徒にはこのようなことを心配することは無かったのですが、最近は関係なくなってきつつあるというのが実感です。小学生も中学生も、いまからきちんとマナーや習慣を確立しておこう。社会に出てから必要なのは学力ではなく「教養」と「責任」です。

塾生の皆さん、「遅刻はやめよう」「無断欠席はやめよう」「挨拶はきちんとしよう」「人の話はしっかり聞こう」「自分の意思で動けるようになろう」。やっていい事、やってはいけない事、やらなければならない事を考えて行動する1年にしましょう。